

第44回「田中稔賞」受賞

たけがはら なおひろ
竹ヶ原 直大さん

稲作農業などを模範的に実践し、協調性・指導性により地域農業の振興に寄与し、本県稲作農業の発展に顕著な業績をあげた個人または団体に贈られる「田中稔賞」を十和田市の竹ヶ原直大さん（45歳）が受賞しました。

竹ヶ原さんの経営耕地面積は168haで、内訳は、水稻81ha、大豆28ha、小麦14ha、牧草45haです。水稻は、全て主食用米として「まっしぐら」を作付けし、スマート農機の活用と高密度播種苗栽培の導入により労働負担の大幅な軽減と作付面積の拡大を可能にしたほか、牛ふん堆肥投入による土づくりと独自の混合肥料作成による良質米の安定生産が高く評価されました。



知事との記念撮影



田中稔稲作顕彰会長からの賞状授与

かみきた楽農通信

第65号
令和7年 1月27日発行

上北地域県民局 地域農林水産部

○ 農業普及振興室
青森県十和田市西十二番町20-12
TEL：0176-23-4281
FAX：0176-25-7242

ホームページアドレス



上北農業普及振興室

○ 農業普及振興室三沢分室
青森県三沢市東岡三沢1-1-7
TEL：0176-53-2498
FAX：0176-53-8539



で検索



室長あいさつ

＊ ＊ 農業普及振興室長 今川 貢 ＊ ＊

昨年は、幸いにも大きな自然災害がなく、高温の影響も最小限に抑えられ、水稻の作況指数は南部・下北が106の「良」で、1等米比率等品質も良好でした。また、野菜等も大きな生育障害もなく収穫されました。令和3、4年は大雨被害、令和5年は異常高温による障害と被害がありましたので、久々に安定した出来秋を迎えることが出来ました。

農業者の高齢化や担い手不足に加え、資材や燃料の高止まり等厳しい農業情勢が続きますが、安全・安心で高品質な農産物の生産や販売力の強化、若手農業者の育成等、関係機関・団体と連携しながら、上北地域の農業振興に引き続き努めて参りますので、御協力をよろしくお願いいたします。

新任職員の活動紹介

『希望を抱き、挑む』 三沢分室：八戸 公平

今年度、民間企業から転職してきました。野菜担当として生育調査、講習会などを行っているほか、様々な研修で多くの事を学び、感じ取っています。情報社会に広くアンテナを張り、青森県の農業を更に拓いていけるよう、前職の知識も生かしながら日々精進していきます。



『頼られる普及指導員に』 地域第1班：坂本 奈津美

私は主に十和田市と七戸町の野菜生産振興を担当しています。様々な研修や日々の業務を通じて、青森県の野菜生産や生産者・関係機関との関係づくりの大切さを感じています。頼られる普及指導員を目指し、これからも頑張ります。



収量・品質ともに良好だった水稻



こかぶも品質良好



十分に太みがあるながいも



令和6年度の農業普及振興室の主な活動の報告

いきいきと暮らせる集落を目指して～一本松集落（十和田市）の取組～

当室では、持続可能で活力ある農山漁村をつくるため、一本松集落をモデル集落として選定し、地域経営体を中心とした稼ぐ力のある「あおり型農村RMO」の育成に向けて関係機関と連携し取組を支援しています。

その一環として今年度は、一般消費者を対象とした「食堂一本松」の運営や、そば打ち体験等の地域イベントの開催に取組み、新たな交流人口増加のきっかけをつくることができました。



そば打ち体験受入(12/7)

耕畜連携による稲WCSの生産と利用

酪農地帯である東北町北栄地区では、飼料高騰対策として稲WCSの確保に力を入れています。TMR（混合飼料）において、稲WCSがコスト低減だけでなく、TMR原料としても有効だということが分かったことからです。今年度は三沢市の法人と新規契約し、県内の原料調達先は、東北町、十和田市、平内町、三沢市となりました。北栄地区では今後も耕畜連携により地域飼料の確保を図りたいと考えており、農業普及振興室としても栽培と利用面で支援していくとしています。



酪農現場での利用方法を説明(12/10)



津軽地域からの稲WCS視察(8/22)

水稻の省力・低コスト栽培を進めるために・・・

去る6月17日、六戸町の若手稲作農家を対象に「水稻の省力・低コスト栽培技術研修会」を開催しました。

研修会では、水稻乾田直播栽培を行っている三沢市の（農）フラップあぐり北三沢の千葉代表からの取組紹介や、参加者から米づくりの課題及び今後の取組等について意見交換を行い、その後、（農）フラップあぐり北三沢の水稻乾田直播栽培ほ場を視察しました。

当室では、今後も水稻の省力・低コスト栽培の導入を積極的に支援していきます。

意見交換の様子



現地視察研修



農福連携を推進

「農福連携」とは、障がい者が農業分野での活躍を通じ、農業経営の発展とともに障がい者の自信や生きがいを創出する取組です。

今年度、当室では、東北町の福祉事業所が開設したポータルサイト「あおり農福連携プロジェクト」及び管内3農協等と連携し、農福連携を体験する「チャレンジ農福」を13件実施したほか、おいらせ町の現地検討会を開催し、本取組を広く周知しました。また、農業者と福祉事業所をつなぐ場として、初めて交流会を開催し、マッチングを進める機会となるなど、徐々に広がりを見せています。

農福連携は、連携する双方が理解することから始まります。興味のある方は当室までお問い合わせください。

○かみきた農福連携ホームページ（当室HP）→



○あおり農福連携プロジェクト（(株)レイズ運営）→



次代に引き継ぐ上北地域集落営農活性化事業 ～集落営農組織間の連携に係る先進事例調査～

上北地域集落営農活性化協議会では、集落営農組織間の連携に取り組んでいる熊本県の3法人を、農事組合法人中矢営農組合2名と熊本県の先進地事例調査を実施しました。

視察先の「農事組合法人久石ファーム」、「農事組合法人熊本すぎかみ農場」、「ネットワーク大津株式会社」では、地域の農地を守るためなんとかしなければという議論が地域内で行われた結果、「自分の農地は自分で守る」から「自分達の集落は自分達で守る」という考えとなり、集落営農組織を法人化するとともに、将来の担い手確保や農業への関心を持ってもらうことを目的に、交流事業や研修生の受け入れを継続的に実施していました。協議会では、今回の研修の成果を上北地域における集落営農組織の活性化につなげたいと思います。



事例調査を実施(10/23)

中部上北地域の水田農業推進に向けた取組

この事業では、中部上北地域に適した水田農業の確立のため、排水対策が整備された水田での高収益作物の検討、スマート農業技術の導入等の取組を行っています。

今年度は、6月ににんにく実証ほで検討会を開催したほか、秋田県大潟村、由利本荘市に視察に行き、水田転作におけるたまねぎ栽培について学び、継続でにんにく、新規でたまねぎの実証ほを設置しました。令和7年2月25日にはスマート農業技術に関する研修会を開催することとしています。



たまねぎ実証ほ直播機実演会(9/19)